

佐藤信一著

『百合合女子大学図書館蔵奈良絵本  
「うらしま」本文と注釈「改訂版」』

嘗て紹介された本学図書館所蔵の奈良絵本「うらしま」の翻刻をもとに、釈文を作成した上で、簡単な注釈を施したものの。凡例に拠れば、平成十七年度百合合女子大学研究奨励費を受けた成果とのことである。

何故、改訂版なのか、という疑問は残る。初版を見ていない。「改訂版刊行に際して」に「かつて印刷所、ユリクリエイトに「百合合女子大学蔵」奈良絵本「うらしま」本文と注釈」の原稿を入稿した後、数多くの修正・補正すべき箇所を見出したことによる」とあることから知られる。誤謬が多かったので刊行を見送ったのである。迷惑な話である。

その翻刻とは「〔翻刻〕〈百合合女子大学蔵〉奈良絵本「うらしま」〔平成十四年十二月「百合合女子大学研究紀要」三十八号〕に基づく。塩越陽子（百合合女子大学院国語国文学専攻修士課程）、柴田佳世子（百合合女子大学院国語国文学科学生）、島田絃子（百合合女子大学院国語国文学専攻修士課程）、内藤まりこ（東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻修士課程）、森田理沙（百合合女子大学院国語国文学専攻修士課程）、吉村澄香（百合合女子大学院国語国文学専攻修士課程）の各氏（所属は当時のもの）との共同作業に拠るも

のである。その上で百合合女子大学院国語国文学専攻修士課程に在籍していた隅田有美氏の協力を得て用例の確認点検の作業がなされたとある。

〈影印翻刻編〉と〈解釈本文編〉とから成る。〈影印翻刻編〉は、原色の「うらしま」の影印を上段に置き、下段に翻刻を配したものの。修正したとされているが、21頁の翻刻の9行目「かたわら」とあるが、明らかな仮名遣いの誤りのある場合は、訂正した文字をカッコで示すという凡例から見ると「かたわ(は)ら」とあるべきだろう。同じ頁の11行目「いいければ」も「いい(ひ)ければ」とあるべき箇所である。〈解釈本文編〉は、〈影印翻刻編〉に基づいて読みやすい本文を作っている。ただ、まだ修正すべき点は多いと思われる。著者の一層の精進を望みた

い。

(二〇〇八年二月二十日刊、私家版)